

令和元年度鳥獣保護管理に係る人材育成研修事業

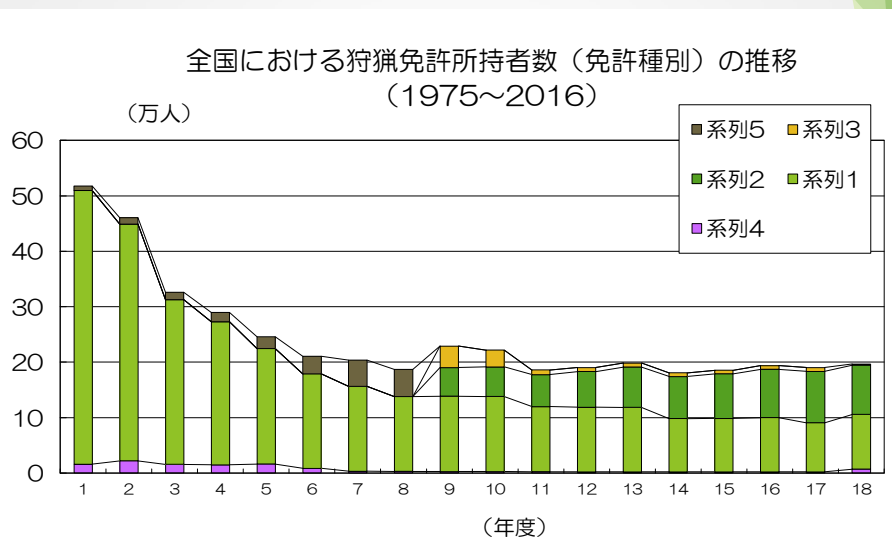
# 捕獲の担い手に求められる能力 と行政として行うべき人材育成

株式会社 野生鳥獣対策連携センター  
上 田 剛 平

- 捕獲の担い手の推移とその背景
- 捕獲の担い手の確保・育成の課題
- 捕獲の担い手の確保・育成の事例

## 捕獲の担い手の推移とその背景

### 狩猟免許所持者は激減後、微増傾向



環境省資料より

## 狩猟者の減少に対する過去の行政施策

- 野生鳥獣による農林業被害の深刻化とともに、狩猟者の減少が問題視されてきた
- これに対し、都道府県は狩猟免許試験の実施計画の見直しを行い、受験機会の増大を行ってきた
- また、猟友会等が実施する狩猟免許試験講習会を支援し、合格率の向上を後押ししてきた
- 市町村は、狩猟免許取得費用の補助等を行い、狩猟免許の取得を支援してきた

その結果…

被害対策を目的にシカ・イノシシを捕獲する人々が増加してきた

## 例えば栃木県の狩猟免許試験受験者は…

### ◆捕獲したい狩猟対象動物の変化

- 2003年では、シカ58%、イノシシ52%、キジ・ヤマドリ46%、カモ類21%の順で人気
- 2009年では、イノシシ87%、シカ33%に対し、キジ・ヤマドリは10%に低下

### ◆狩猟免許試験受験のきっかけの変化

- 2003年では、「鳥獣被害を減らすため」が48%だったが、2009年では72%にまで増加

出典：上田ほか（2010）栃木県における新規狩猟者の実態と意識の変化.野生鳥獣研究紀要No.36, 1-6.

## マンガ・ジビエブームによる狩猟への関心の高まり

- 特に都市住民を中心としたジビエに対する関心の高まり
- 狩猟をテーマにしたマンガやドキュメンタリー番組の影響
- 野生動物の都市部への出没の深刻化
- 環境省主催の「狩猟の魅力まるわかりフォーラム」には、7年間で8,800人以上が来場



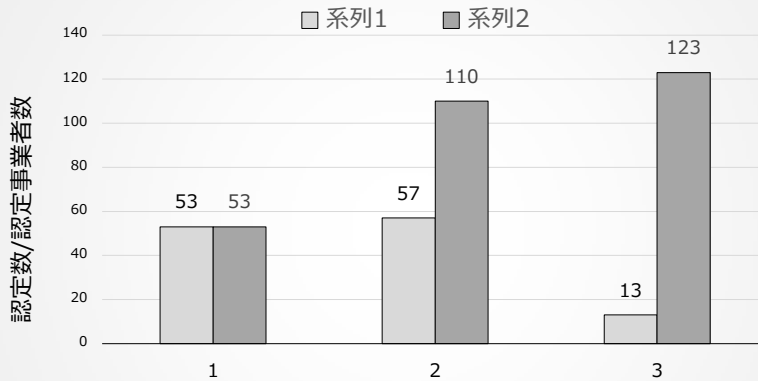
その結果…

食肉利用を目的に捕獲する人々が増加してきた

## 認定鳥獣捕獲等事業者制度の導入

- ◆平成26年の鳥獣保護管理法改正により新たに導入
- ◆鳥獣捕獲等事業の受託者として、都道府県知事の認定を受けた事業者
  - ✓安全管理体制を確保し、
  - ✓適正かつ効率的に鳥獣の捕獲を実施できる
- ◆公的な鳥獣捕獲等の業務を契約を結んで受託
  - ✓契約を適切に遂行する義務がある
- ◆地域の鳥獣保護管理の総合的な担い手となることが期待される

## 認定鳥獣捕獲等事業者は増加傾向

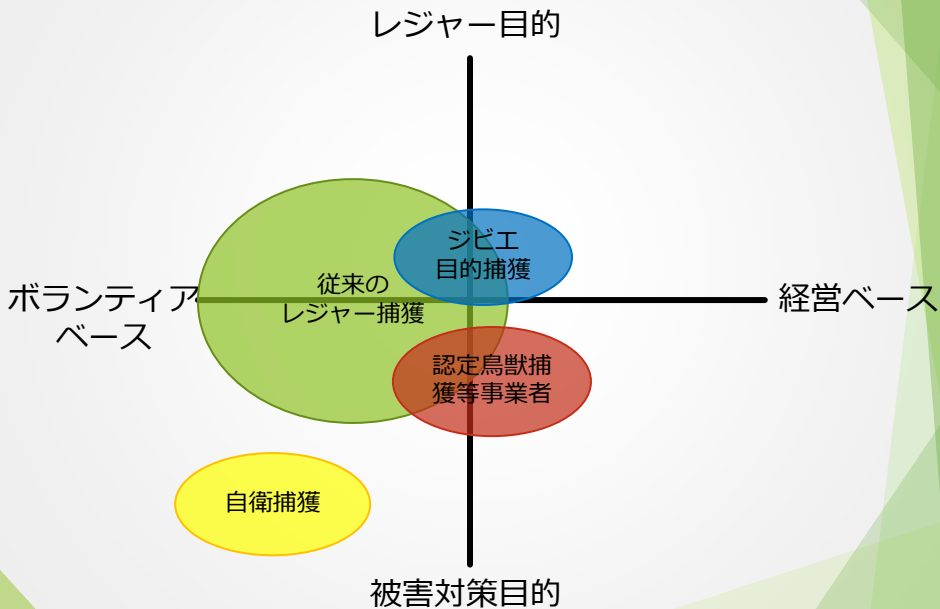


認定事業者の年度別認定状況と認定事業者数の推移

平成29年度認定鳥獣捕獲等事業者制度検討調査業務報告書より

令和元年10月31日現在、全国で143事業者が認定

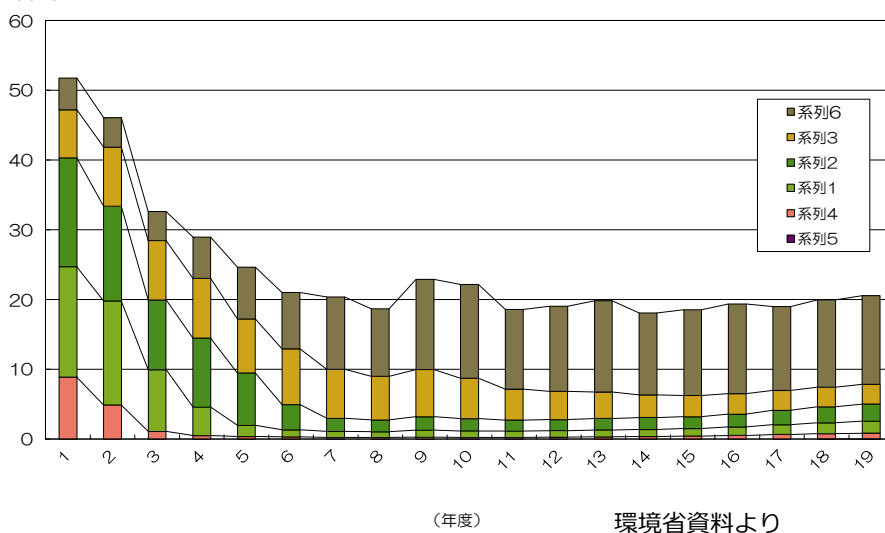
## 捕獲の担い手と形態の多様化



## 捕獲の担い手確保・育成の課題

## 高齢化は依然として深刻

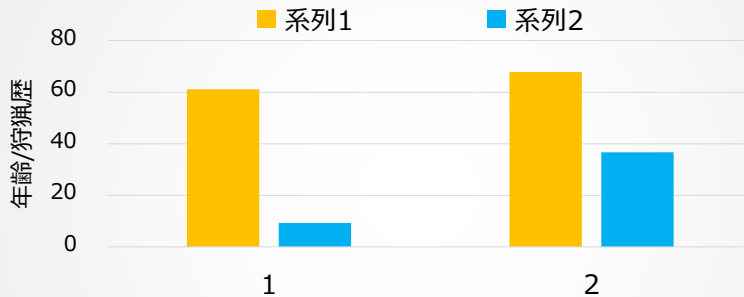
(万人) 全国における狩猟免許所持者数(年齢別)の推移(1975~2017)



環境省資料より

## 新規参入しても長続きしない人もいる

狩猟免許を更新しなかった人を調査したところ…



被害対策目的で新規にわな猟を始めた人が、免許更新しなかった理由

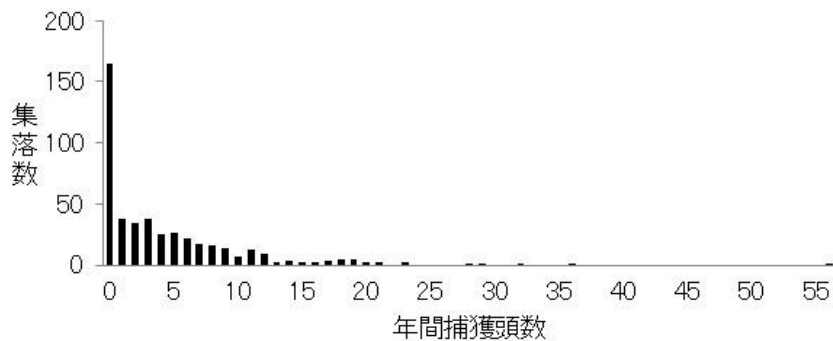
- ✓ 思った以上にお金がかかる
- ✓ 捕獲しても被害が減らない
- ✓ 仕事しながらでは忙しすぎてできない

出典：上田ほか（2012）日本の狩猟者はなぜ狩猟をやめるのか？－  
狩猟者維持政策への提言－.野生生物保護No.13(2), 47-57.

## 捕獲はそんなに簡単ではない

捕獲わなを導入した460集落の年間捕獲頭数

- ・ 0頭の集落：全体の36%
- ・ 2頭以下の集落：全体の52%

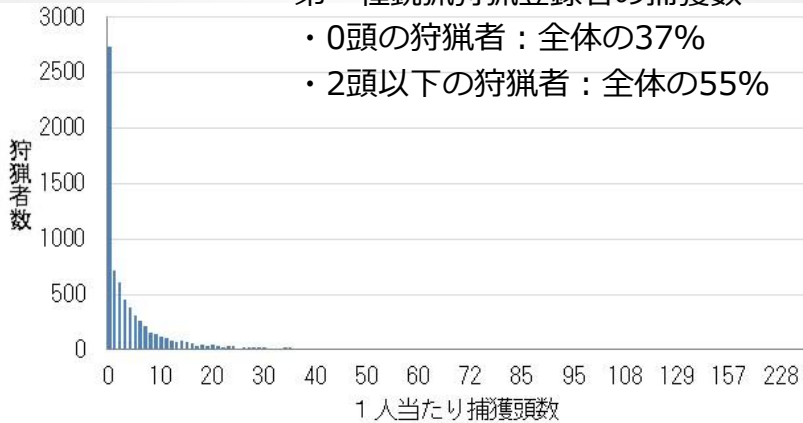


(兵庫ワイルドライフモノグラフ7号より)

## 捕獲はそんなに簡単ではない

### 第一種銃猟狩猟登録者の捕獲数

- ・ 0頭の狩猟者：全体の37%
- ・ 2頭以下の狩猟者：全体の55%



のべ7350人の捕獲頭数53,408頭の分析結果（兵庫県H22年～24年）

（兵庫県森林動物研究センター調べ）

## 急速に広がるシカへの対応の必要性

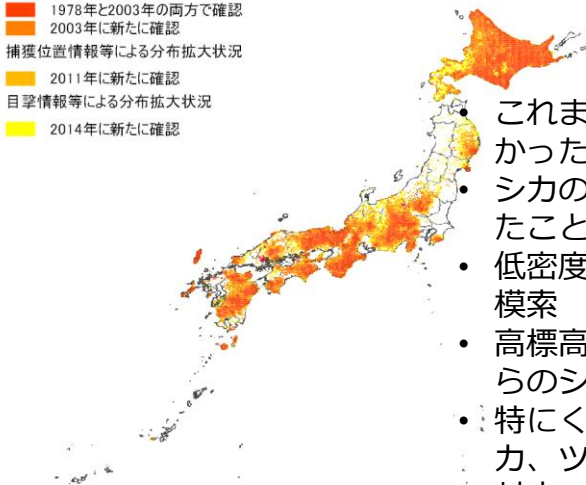
### ニホンジカ分布域

自然環境保全基礎調査

- 1978年のみ確認
- 1978年と2003年の両方で確認
- 2003年に新たに確認

捕獲位置情報等による分布拡大状況

- 2011年に新たに確認
- 目撃情報等による分布拡大状況
- 2014年に新たに確認



- ・ これまでシカが生息していなかった地域への分布拡大
- ・ シカの生息が長期間断絶していたことによる捕獲技術の消失
- ・ 低密度地域におけるシカ対策の模索
- ・ 高標高域の希少種保全の観点からのシカ捕獲
- ・ 特にくくりわなによるカモシカ、ツキノワグマの錯誤捕獲の対応



## 都道府県から見た認定鳥獣捕獲等事業者 制度の課題

- ◆ 認定を受けたからといって、**捕獲能力や業務管理能力を裏付ける制度ではない**ため、捕獲等業務の発注者のニーズを満たしてくれるかどうか不明確
- ◆ 認定後の**認定事業者の質を高めるための施策が必要**
- ◆ 認定後の**認定事業者を評価する仕組みが必要**

出典：平成29年度認定鳥獣捕獲等事業者制度検討調査業務報告書より

## 捕獲の担い手を確保・育成する上での課題

- ◆ 新規参入する人々をどうやって持続的に確保するか？
- ◆ 新規参入する人々にどうやって継続的に活動してもらうか？
- ◆ 必要な捕獲技術をどうやって効果的・効率的に習得させるか？
- ◆ 捕獲事業を担う事業者が経営的に成り立つよう、どうやって支援するか？



**社会にとって必要となる鳥獣の捕獲を、  
持続的に実施することができるか？**

## 捕獲の担い手確保・育成の事例

### 紹介する捕獲の担い手育成の事例

- ◆ 新規狩猟者に対する捕獲技術の向上
  - 狩猟マイスター育成スクール（兵庫県）
  - わな捕獲技術向上研修事業（和歌山県）
- ◆ 分布拡大地域における捕獲技術の習得
  - 山形県鳥獣管理研究会の取組
- ◆ 認定鳥獣捕獲等事業者を対象とした研修の財源やツール

他地域の情報は、環境省が作成した、「捕獲の担い手確保・育成に関する特徴的な取組事例集」をご覧ください。

## 狩猟マイスター育成スクール（兵庫県）

### ◆事業の目的

- ✓ わな、銃による野生鳥獣の捕獲に関して、多様な専門的知識や技術を習得すること
- ✓ 将来的には地域の捕獲者の中核を担う人材を育成すること

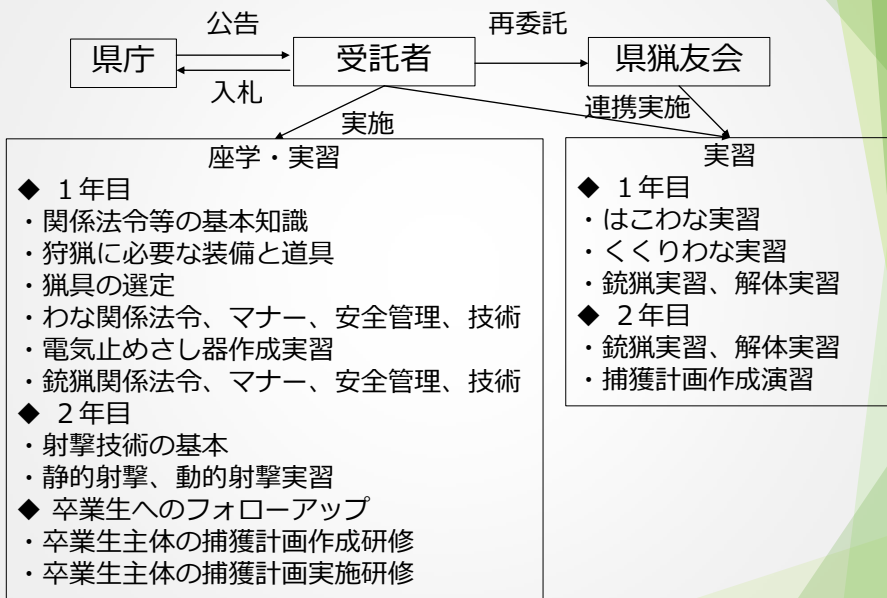
### ◆事業の目標

- ✓ 年間30名の捕獲技術者を育成（H26から計93名修了）

### ◆事業概要

- ✓ 座学・実習で構成される体系だったカリキュラムを作成
- ✓ 2年間で、わな・銃ともに使える人材を育成
- ✓ 令和元年度から卒業生に対するフォローアップ研修も実施

## 事業のスキーム（事業実施）



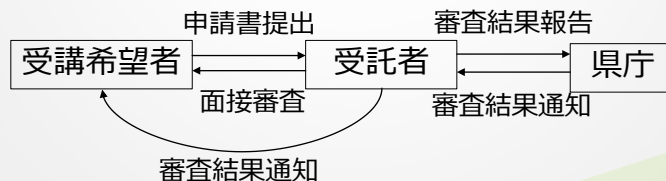
## 事業のスキーム（受講者の選定）

### ◆受講者の条件

- ✓ 兵庫県居住者、有害捕獲への従事意欲、猟友会への入会
- ✓ 年齢は20～概ね59歳まで
- ✓ 講義・実習について、8割以上受講（修了要件）
- ✓ 狩猟免許（わなと第1種の両方）取得後3年以内あるいは受講1年目に取得する意向があること
- ✓ 猟銃所持許可証取得後1年以内、あるいは取得予定者
- ✓ 資格は取得しているが、捕獲実績がないもの

いずれかを満たす者

### ◆受講者の選定



## 卒業生に対する関係機関のフォロー

### ◆市町のフォロー

- ✓ 卒業生は、地域の有害捕獲の新たな担い手として猟友会支部に推薦
- ✓ マイスター修了者に対し、資格取得経費を補助

### ◆県のフォロー

- ✓ 新人の第1種銃猟登録者に対し、猟友会によるマンツーマン指導を補助

### ◆猟友会支部のフォロー

- ✓ 有害捕獲班員として修了後速やかに受け入れ
- ✓ 県事業を活用し、卒業生の実地指導を実施

➡ 卒業生の54%が有害捕獲活動に参加中

## わな捕獲技術者向上研修事業（和歌山県）

### ◆事業の目的

- ✓ わな猟免許取得者のうち、取得後間もない者や捕獲技術向上を求める者を対象に、シカ・イノシシの捕獲に関する技術指導経験を有する指導員による技術指導を通して、捕獲技術を向上

### ◆事業概要

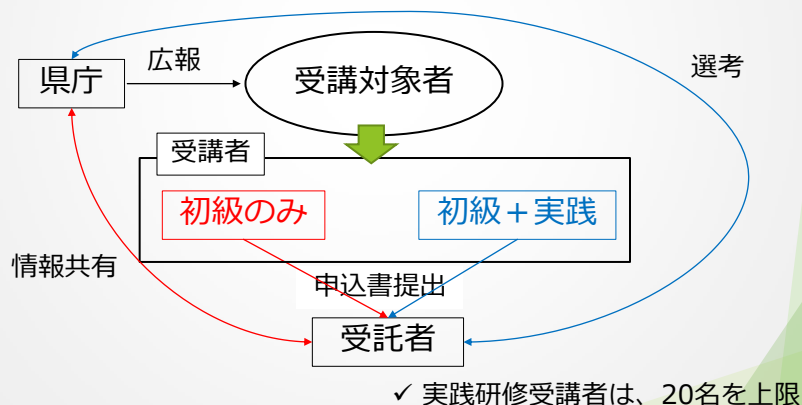
- ✓ 初級研修で、わな猟の捕獲技術（座学+実地）
- ✓ 実践研修①で、くくりわなと電気殺処分器の作成（実習）
- ✓ 実践研修②で、くくりわなの設置方法や止めさし方法（実習）
- ✓ 狩猟期間中の2か月で計8日間、受講者のわな設置場所にて現地指導を実施

## 事業のスキーム（受講者の選定）

### ◆受講者の必須条件

- ✓ 狩猟免許取得から概ね10年を経過していない者
- ✓ 研修年度にわな猟狩猟者登録を行う者

### ◆受講者の選定



## 新規狩猟者を育成するうえで重要な視点

### ◆事業目的に合致した受講対象者の設定

- ✓有害捕獲の担い手の育成か、レジャーハンターの育成か？
- ✓初心者でも、本気で捕獲を実践する気がある人を対象にするのか、それともペーパーハンターを対象にするのか？



- 事業のコンセプトによって広報の仕方も変わる
- 受講対象者のニーズが変われば、カリキュラムの組み方も変わる
- 事業成果を評価するための評価軸も変わる

そのためには…

申込者の中から、設定した受講対象者に合致する人を選定する仕組みが不可欠

## 新規狩猟者を育成するうえで重要な視点

### ◆受講対象者のニーズに合致したカリキュラムの設定

例えば実践的なわな捕獲研修を想定した場合・・・

- ✓道具の準備から止めさしまで、一連の作業に対応する基本を押さえる必要がある
- ✓座学だけでなく、実際に作業をする方が価値が上がる
- ✓安全管理には特に重点を置く必要がある
- ✓最も価値が高いのは、受講者のフィールドでの現地指導

例えば実践的な銃捕獲研修を想定した場合・・・

- ✓猟銃の種類や特徴、照準器など、道具の選定段階から指導したほうがよい
- ✓射撃場での射撃からフィールドでの捕獲まで、一連の作業における理論を踏まえた指導が重要
- ✓安全管理には特に重点を置く必要がある

## 新規狩猟者を育成するうえで重要な視点

### ◆カリキュラム修了者の認定基準

単発研修ではなくスクール形式を想定した場合・・・

- ✓カリキュラムや受講者が多いほど、欠席者が出る
- ✓スクール形式だと欠席者の扱いが課題となる
- ✓修了基準はできるだけ厳格化した方がよい



- 欠席者に対し、補講を実施するなどフォローの仕組み
- あるいは、複数年で修了することも可能にする
- 修了検定を実施し、習得した知識や技能の水準をチェック

これにより、事業目的に設定している必要な知識や技能が習得できたかどうかの確認が可能

## 山形県鳥獣管理研究会

### ◆研究会の目的

- ✓県内で増加する指定管理鳥獣について、効率的に捕獲できる技術及び体制を有する組織を確保・育成する

### ◆研究会の体制

- ✓県が主催し、事務処理を担当
- ✓会員は山形県猟友会理事及び各支部長等の20名程度

### ◆研究会の活動内容

- ✓シカ、イノシシの生態に関すること
- ✓シカ、イノシシの効率的な捕獲方法に関すること
- ✓捕獲の担い手の育成に関すること
- ✓捕獲技術や生息状況についての調査、研究
- ✓その他

## 令和元年度の研究会の取組

### ◆わな捕獲時の止めさし技術の習得

- ✓ イノシシの安全な止めさし（座学）
- ✓ 電気止め刺し器作成研修（実習）

### ◆イノシシのわなによる捕獲技術の習得

- ✓ くくりわなによるイノシシの捕獲技術（座学）
- ✓ くくりわな作成研修（実習）
- ✓ くくりわなの設置研修（実習）

### ◆イノシシの銃による捕獲技術の習得

- ✓ 銃によるイノシシの捕獲技術（座学）
- ✓ 捕獲計画作成研修（実習）
- ✓ 捕獲計画に基づく銃による捕獲実地研修（実習）
- ✓ 捕獲実施研修の振り返り（座学）

指定管理鳥獣捕獲等事業者を対象とした研修として位置付け

## 分布拡大地域における捕獲技術者の育成において重要な視点

### ◆育成対象者が研修を受けるプラットフォームの整備

- ✓ 他の鳥獣の捕獲実績を有するため、捕獲技術に対する自負はある
- ✓ 組織として新しい技術や情報の習得体制をサポート

### ◆できるだけOJT型の研修を取り入れたほうが有効

- ✓ 多額の予算を投入した捕獲事業をいきなり任せるのは、リスクが大きい
- ✓ 採用する捕獲手法による、対象獣種の捕獲実績を有する指導者によるOJT型研修を取り入れ、必要な捕獲技術の移転を図る方が有効



## 認定鳥獣捕獲等事業者を対象とした研修の財源やツール

- ◆ 指定管理鳥獣捕獲等事業交付金を活用した、認定鳥獣捕獲等事業者の育成
  - ✓ 山形県鳥獣管理研究会
  - ✓ 石川県認定鳥獣捕獲等事業者の育成事業
  - ✓ 富山県の指定管理鳥獣捕獲等事業（中級OJT捕獲）
- ◆ 認定鳥獣捕獲等事業者事業管理責任者向け研修教材の活用
  - ✓ 平成30年度に環境省が作成（HPで公開済み）
  - ✓ 認定後の事業者の質の向上を目的に作成
  - ✓ 事業の発注の仕組み、受注に向けた準備、受注後に必要な対応等を取りまとめた教材

## まとめ

- 事業の目的に合ったスキーム
- 必要となる財源の確保
- 効果的な人材育成カリキュラムの作成



社会にとって必要となる鳥獣の捕獲の担い手を、持続的に確保・育成する